

平成二十八年十二月一日発行（毎月一回一日）  
書 象 第六十四卷 第十一号 通卷七三三号

書 象



日本書道芸術協会

2016-12

## 重厚な線

理事長 市澤 静山

上條信山先生は重厚な線で書くようにと、門人達に指導されていた。

掲載の信山先生作品は「印々泥」「画沙」の二点組みで朝日二十人展で発表されたものである。この語は古い書論にある。「印もて泥に印す」「錐もて沙に画す」と読む。ただし先生は「錐」字を省いている。古代中国では印は粘土状の泥に印を押ししていた。線は土にめり込んで、くぼみを作る。錐の先で沙に線を引けば、V字形のくぼみとなり、線の中心は錐の先端が沙中に強く突き刺さることになる。

この比喻のように、それを毛筆で書くとすると、毛筆の先は線の中心を通り、その筆の先端が紙背に突き抜けるほど、紙面に強く当てるのである。そうすれば線は沈着になる。沈着が理想の線であると説くのである。この線は線の中心部が深く沈んでいるように感じ、逆に中心が盛り上り立体的にも感じる。これが信山先生の言う重厚な線であると思う。

書象誌六月号、十月号の基本課題の手本には、起筆部、転折部において不思議な形や飛び出しがある。それは宮島詠士の書法は筆の先を線の中心を通そうとして、逆筆入筆を何回も筆を出し入れして、直筆の状態で線を引いているからである。同時に詠士は筆鋒を動かしながら、書く気を高めて行き、その気が満ちた時に線を引いているのである。この書きぶりは、信山流の手本、張猛龍の臨書課題も同様である。「画沙」を意識して、重厚な線を書いてほしいと思う。そしてその学習が展覧会作品に重厚な線をもたらすことになる筈である。

### 小坂憲次先生のご逝去を悼む

書象会名誉会長の元文部科学大臣小坂憲次先生は十月二十一日に冥界に旅立たれました。病から快癒されてご活躍されることを願っていました。先生を必要とする多くの人の前にお立ちいただきありがとうございました。そう念願しておりましたが、残念なことです。心が悼みます。永く書象会の名誉会長としてお名前をいただき、多くをご指導くださいました。新年会等にご臨席の折、先生の温顔と慈愛に満ちたお話しは、私たちの心に暖かく留まっております。ご厚情に感謝申し上げます。哀悼の意を表します。

合掌

書象会理事長 市澤 静山



上條信山先生 朝日二十人展 (1980) 「画沙」



朴拙巧心に勝る

12月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

行書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

集王聖教序

上條信山先生書



（貞觀廿二年八）月三日、般若波（羅蜜多心經）

12月20日必着  
出品券を貼付

・字間、行間の広さと筆脈を意識する。

・字は小ぶりに、運筆は大きく書く。

〔月〕  
・二本の横画は右寄せ。



〔若〕  
・左払いの角度に注意。



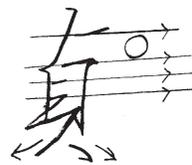
〔波〕  
・偏旁の距離感に注意。





「貞」

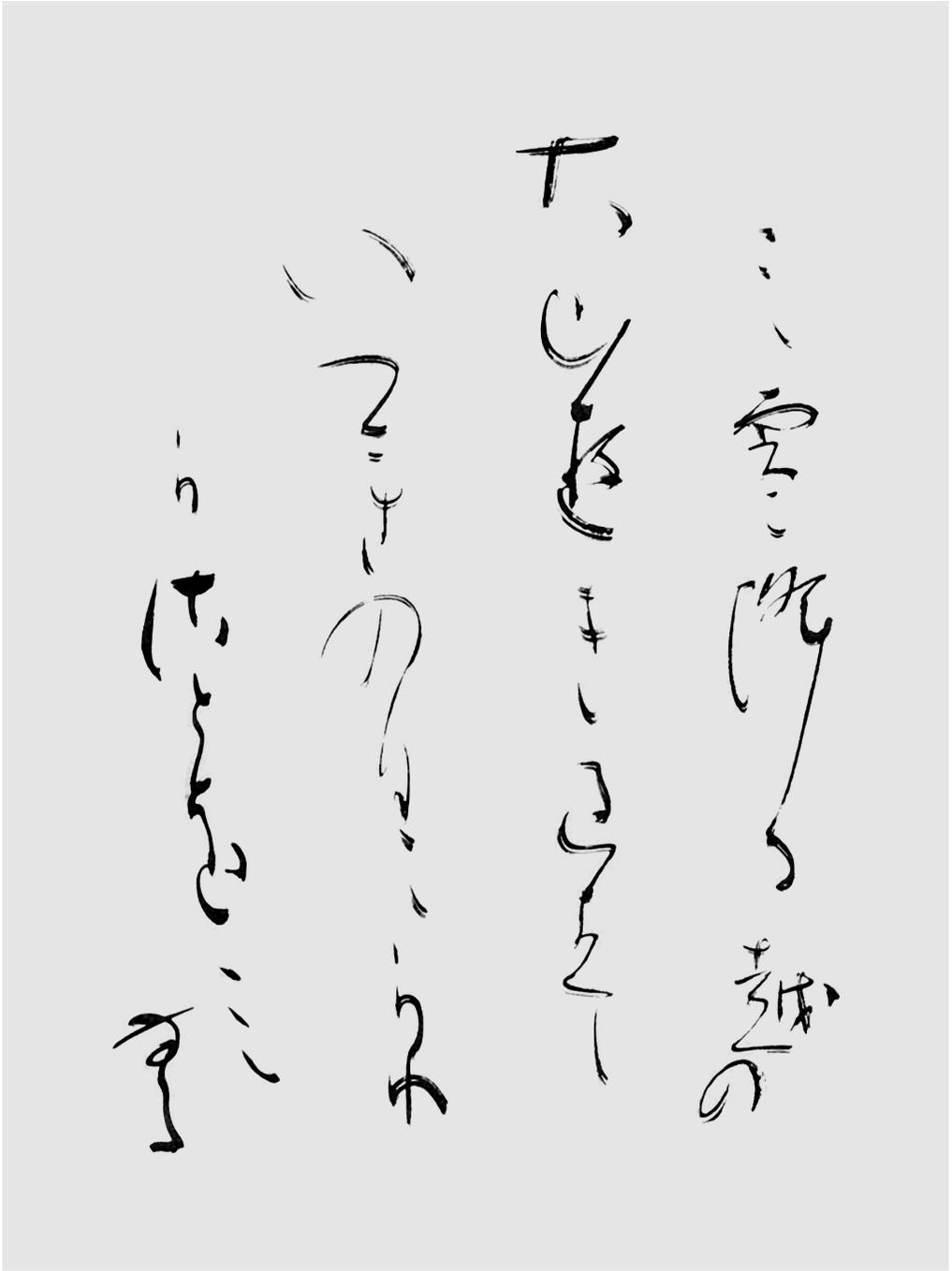
「レ」部が大きく動きがある。  
四方への線がバランスを保つ。



「観」

画数が多いが、文字の中の空間をしっかりととり、ゆとりのある構造を作っている。





み(三)雪降る越の大山ゆ(遊)き過ぎ(支)ていづれ(連)の  
日に(二)か(可)わが(可)さ(佐)とをみ(三)む(無)

(万葉集 卷十二)

12月20日必着  
出品券を貼付

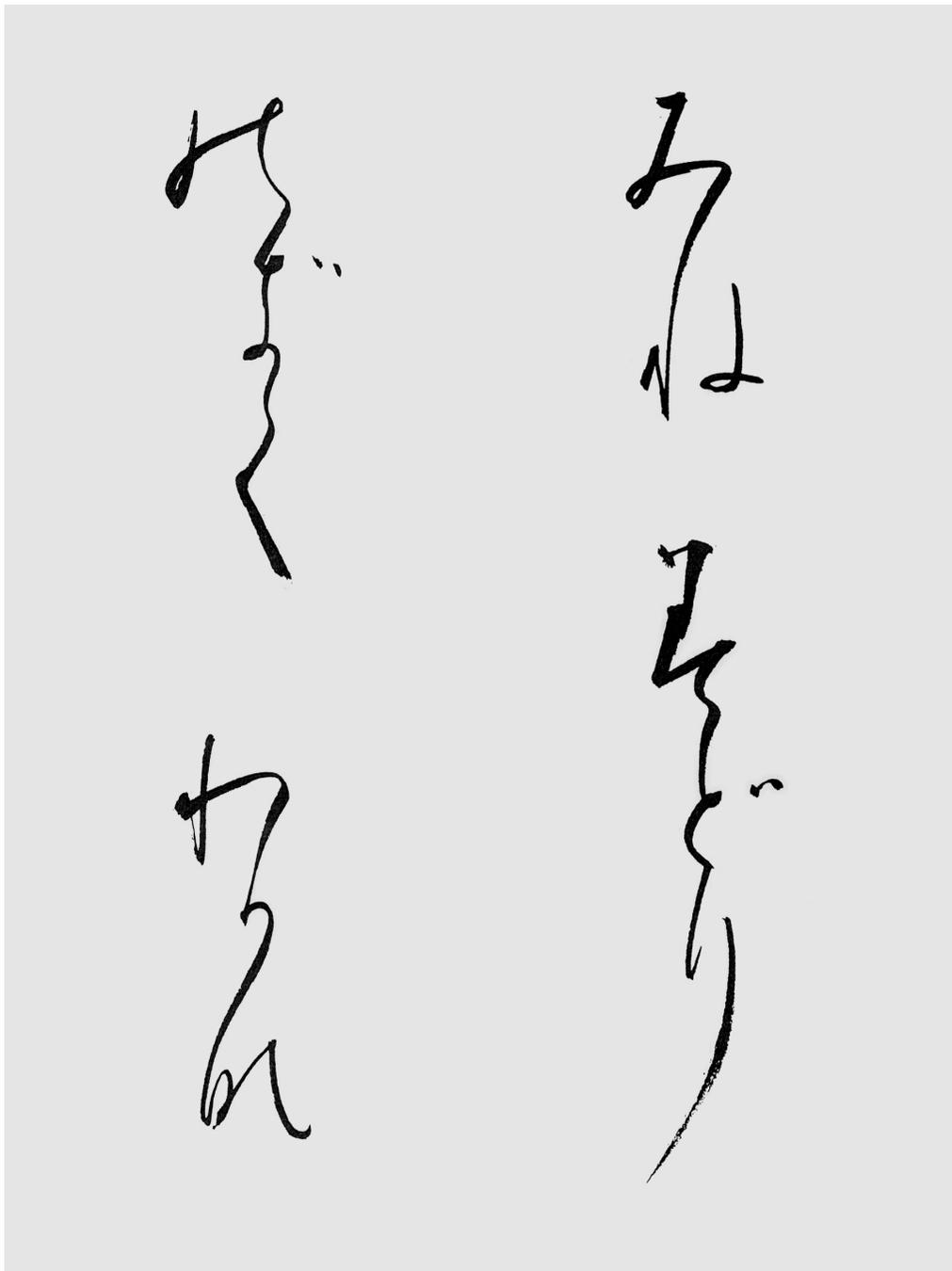
・全体の流れ、行間に注意する。



・大胆な筆の運びに注目。

・特に漢字の動きのある造形をしっかりと把握する。





みね み(美)どりの(能)ぎ(支)くわか(可)な(那)

- ・文字の外形、重心をとらえ、自然な連綿を心がける。
- ・連綿箇所を速く書き、運筆に緩急をつける。

「ね」

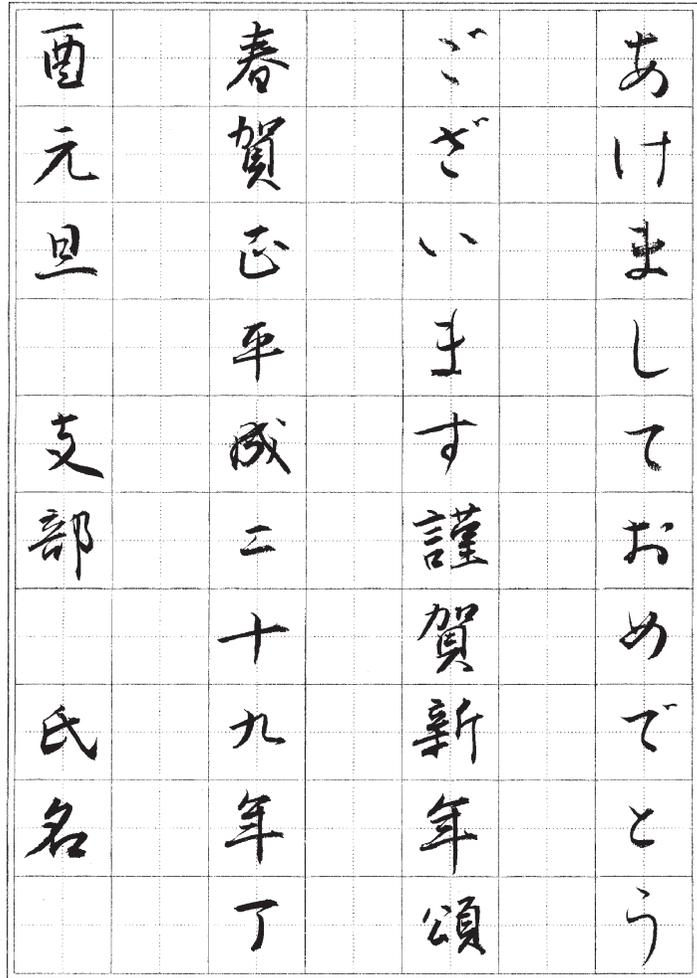


「み(美)」



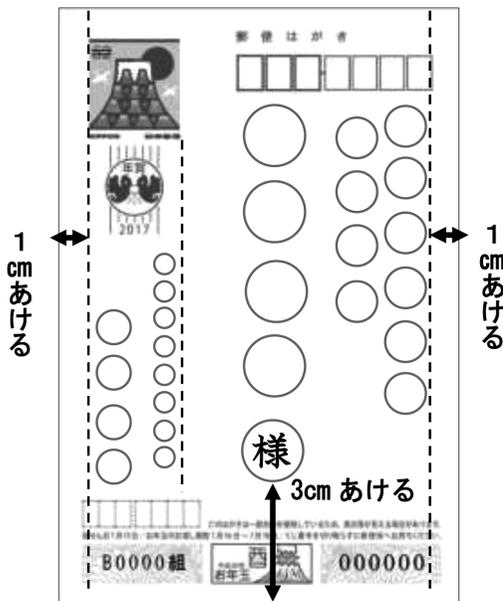
「わか(可)」





あけましておめでとうございます 謹賀新年 頌春 賀正 平成二十九年 丁酉 元旦

年賀状のあて名書き 下図を参考にして行の位置、文字の大きさを体裁よく書きましよう。  
中心のあて名は大きく、等間隔に書く。様の下は三センチあける。差出人の名前は小さく、低く。終わりの字は「様」より下げる。左右の端は一センチ以上あける。



※B5版の「こくご」10マス十字リーダー入りのノートを使用

賀状文例

- |    |      |    |      |
|----|------|----|------|
| 賀春 | 謹賀新春 | 賀寿 | 瑞気集門 |
| 慶春 | 謹賀新正 | 福寿 | 長樂無極 |
| 寿春 | 恭賀新年 | 鳳祥 | 長生安樂 |
| 寿正 | 恭賀新禧 | 祥雲 | 延寿萬歲 |
| 慶賀 | 敬頌新禧 | 献寿 | 敬寿瑞春 |
| 敬賀 | 恭頌新禧 | 瑞祥 | 富貴尊榮 |



漫天雪寒を送る

朱熹の句

- ・「漫・天・送・寒」の払いとしんにような方向や形を体得して下さい。
- ・横画がたくさん出てきます。方向を統一してみましょう。
- ・字形の観察をして下さい。

臨書条幅随意【条随】

杉山暁雲先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



維貞觀六年孟夏之月。皇帝避暑乎九成之宮。此則隨之仁壽宮也。冠山抗殿。絕壑爲池。跨水（架楹）。

・この手本は「九成宮醴泉銘」の冒頭部分の臨書です。法帖に従って制作してください。

・中鋒、逆筆で書いて、屋漏痕に挑戦しましょう。

※屋漏痕：水滴がしみ通るような滲みの痕

の空の夜明け

中学一年規定 【学毛】

小淵石峯先生書

美術館 西洋美

中学二・三年規定 【学毛】

市澤静山先生書



小学五年規定 【学毛】

柳澤玄嶽先生書



小学六年規定 【学毛】

荻田光山先生書

上本  
七巻

小学三年規定 【学毛】

寺尾碩雲先生書

はく  
林カ

小学四年規定 【学毛】

虎井眺鐘先生書



小学一年規定 【学毛】

恩田静月先生書



小学二年規定 【学毛】

樋口玄山先生書



日本の産業や貿易は時代に  
よりどう変わったか、資料を  
基に話し合った。

名前 支部 年 級段

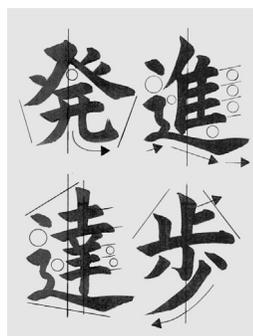
林先生が、テレビで、本を  
読むことの大切さを教え  
ていました。

名前 支部 年 級段

ぼ	っ	青
く	て	空
の	大	に
た	き	、
こ。	く	か
なまえ	う	ぜ
支部	か	に
年	ぶ	の
きゅう		

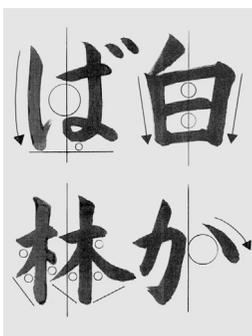
※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。  
作品の大きさ↓たて18cmよこ7cm 小一・二課題↓2.1cmのマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。



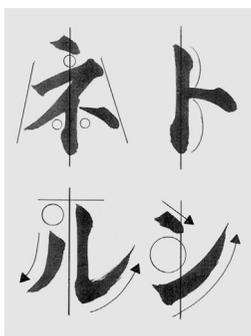
小学六年

「進」のしんには筆圧の変化と線の方向に気をつける。「歩」の最終画は六画目よりもたおす。「発」は上部の左右の払いを広げて釣り合いをとるように。「達」の横画は長さや角度に注意。



小学四年

「白」の一画目は45度、二本の縦画はやや内向きに。「か」の一画目の終筆は次画にむけてはねる。「ば」の一画目は丸みをつけ、二、三画目の交差する位置に注意。「林」は下部の画間を等しく。



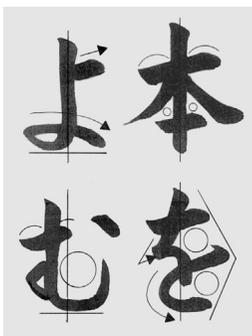
小学二年

「ト」の二画目は一画目の真中よりやや上に接する。「ン」は一、二画目の角度と方向に注意。「ネ」の最終画は他と接しない。「ル」は一画目の角度が重要。



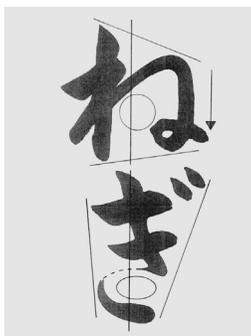
小学五年

「赤」は三画目を最も長くし、下部の余白は等間隔に。「い」の二画目は少し短くする。「毛」は一画目の角度に注意し、二本目の横画を長くする。「糸」の斜画は平行に、五、六画目は左右に広げる。



小学三年

「本」は二画目を中心として左右対称に。「を」の三画目は右に張り出す。「よ」の一画目はやや右上がり、二画目の最後は横広に結ぶ。「む」の結びは縦長に、最後は上に向かつてはねる。



小学一年

「ね」は一画目を長くする。二画目の大回りの線は真っすぐ気味におろす。「ぎ」は概形を長方形に構え、二本の横画は一本目をやや長くする。

古典研究シリーズ 402 【古典】

こじゆのふ  
枯樹賦 唐六三〇年

ちよすいりょう  
褚遂良 (五九六〜六五八年)

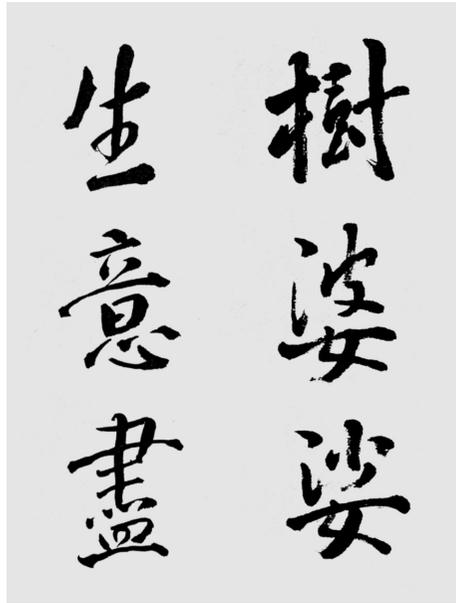
書き方

- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
  - ② 続き文字でなくても構いません。
  - ③ 落款を入れて下さい。
  - ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。そして制作意図も書いて下さい。
- 古典研究の出品券を貼付して下さい。  
(編集部)

今月のテーマ

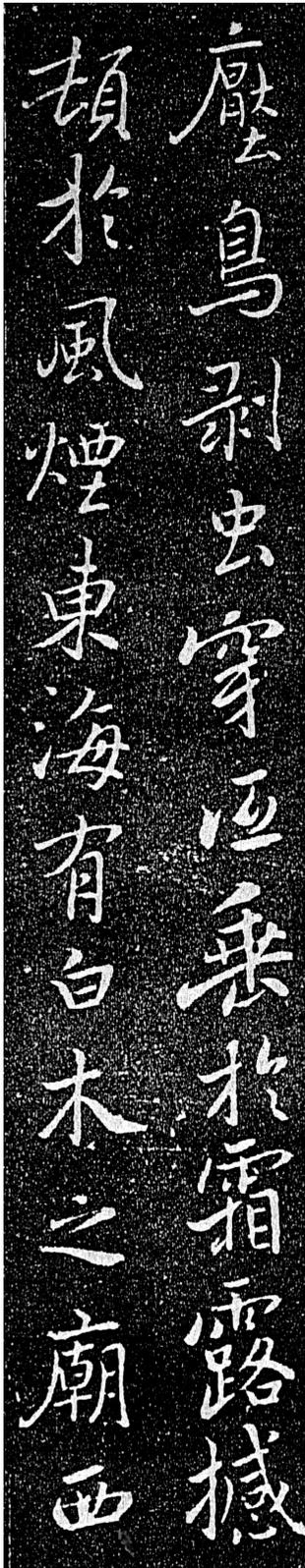
写実的臨書 中字 (四字〜六字)

今回を含めて二回枯樹賦を掲載します。もう一度書風の特徴について言及してみたいと思います。字形は王羲之の「集王聖教序」などの延長線上にあり、文字の大小や結構に変化をつけています。特に偏旁から成る字には、偏旁の大きさを変えたり、偏を上げて旁を下げるなどの特徴が顕著に表れています。線は「集王聖教序」の直線的ですっきりしたものは対照的に曲線が主体となっており、褚遂良の楷書作品「雁塔聖教序」にも一脈通じる抑揚に富んだ筆致で書かれています。また、点画の連続方法は最短距離でつながりというのではなく、ゆったりと大きく遠まわりをしながら連続させて複雑な味わいを出しています。章法は、字間を狭く詰めており、前述したような線質の特徴と相まって、全体的には華麗で軽快な躍動美が美しく感じられる作品となっています。(参考文献 角川書店「高等学校書道教科書」)



上條信山先生の臨書例

角川書店「高等学校書道教科書」



〔釈文〕 庄鳥剝虫穿低垂於霜露撼／頓於風煙東海有白木之廟西 (最初の文字「壓」は庄の旧字体)

— 信山先生の自伝 —

「硯上の塵」を読む52

上條先生は、特に印象に残る作品十選に一点だけ仮名作品を選ばれています。多くの仮名作品の中からこの一点を選んだ理由。この作品が思い出に残る理由があるのです。

第九章 作品十選

9、万葉集の歌 昭和五十六年 三九×二八種

今日では書壇の分化、あるいは専門化が進んで、漢字作家、仮名作家、あるいは近現代詩文作家というように分業し、相互交流がなかなか



「万葉集の歌」 (昭和56年 39×28種)

かむずかしい状況になっている。しかし、仮名は元来が漢字の草書体をさらに簡略化して作り上げられたもの。一人の人間が漢字作品を書き、また仮名作品を楽しんでも、何ら不思議のないことである。私についていえば、もとより漢字作品の制作数の方が圧倒的に多いのであるが、現代書道二十人展や社中の書象展などでは、必ず仮名作品も出品するようにしている。

前述のように、私は文検に合格するために、文検の規格に則った仮名をまず学び、次いで戦後の書教育の再建のために尾上柴舟先生と行動を共にする機会が多かったことから、尾上先生の指導ぶりを垣間見、また時には直接に御指導をいただくことがあった。尾上先生の書は藤原行成の粘葉本和漢朗詠集の書風に徹底したもので、自から私も基礎をこのいわゆる行成流できたえたいし、また門下の指導やテキスト類についても、行成流から入るようにしている。

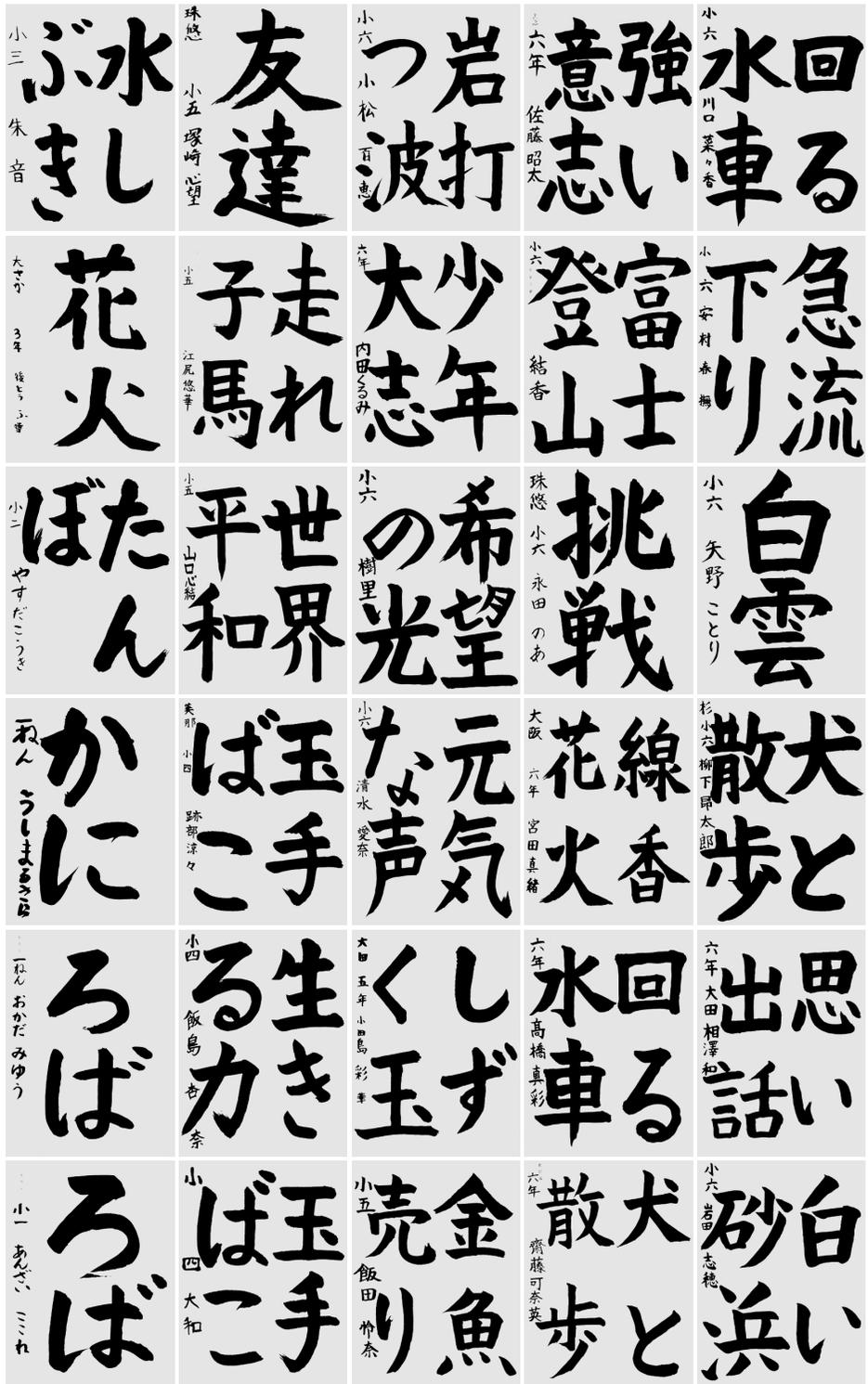
ただし、現在の私の作品としての仮名は行成流ではない。自分が学び、築き上げてきた漢字の力が根底となり、それに既存の行成流が混じり合い、調和と練度を重ねたもので、いわば「信山流仮名」になっている。「信山流仮名」は、しやうけい 遒勁な漢字の筆力を存分に生かして仮名を書くもので、仮名がときに、「女手」と呼ばれるごとく、かよわく柔和に傾くものではない。

この万葉集からとった仮名作品は、西本願寺本三十六人集風なのでやかな料紙を使用しているが、濃墨により、潤濁、細太の変化を存分に生かしたものである。日比野五鳳先生がお元気な頃、「漢字よりすばらしい」とおほめをいただいた、思い出に残る作品である。



中二 努力 百瀬まゆ	中二 懸命な 和仁 柚乃	中三 銀河系 松井 皇	中三 独自の 松井 皇	中三 創造 竹内 萌	中三 長い登 前野 晴香	高一 積徳 宮嶋 文子
中二 砂浜 龍大 中二 ほのか	中二 海岸の 李奈 葵子	中二 長い登 勃津 大翔	中二 自由と 勃津 大翔	中三 静かな 山の朝 金杉 美也子	中三 博愛の 精神 森田 美紀	高一 達成 中村 紫乃
中二 発芽 杉本 陽菜	中二 山道 心乃	中二 長い登 井上 万結	中二 新聞に 載る 井上 万結	中三 自由と 平和 朝日	中三 長い登 山道 池田 華音	中三 微風徐動 有 涼信 深海 美優臨
中一 古代 北島 佳奈	中二 山光 我心 深雅	中二 天朗氣 清恵風 小山 愛乃	中三 飛躍 磯崎 あやみ	中三 静かな 山の朝 阿部 七美	中三 落日の 景色 芽衣	
中一 共同 生活 実佳	中二 温故 知新 阿部 小百合	中二 長い登 山道 綾美	中三 有終 完美 陽香	中三 感謝す 感謝す 竹内 夢	中三 記録を 達成 みのり	
中一 梅雨 前線 小松 愛莉	中二 長い登 山道 榎本 麻衣花	中二 古代の 文明 佐藤 千尋	中三 予報 樽井 駿典	中三 感謝す 感謝す 芳野 葵	中三 長い登 山道 篠馬 白洋 麻佑	

松聲 玄樞 有穂 サン 龍文 ひまわり 虹苑 聖徳女中 玄樞会 玄樞会 華雪 名東 光ヶ丘 有穂 若竹 有家会 高社 正桂 茜城 成重 若葉 珠紅 聖徳女中 聖徳女中 聖徳女中 聖徳女中 美菜会 華雪 皓花 練馬 山愛 北府 高社 希望 硯扇  
 小松 川島 北島 杉本 小川 百瀬 まゆ 榎本 阿部 北川 守屋 李奈 和仁 佐藤 宮原 小山 井上 駒津 松井 樽井 重田 磯崎 村松 金杉 竹内 芳野 竹内 阿部 池田 森田 前野 白澤 丸山 豊田 深海 中村 宮嶋  
 愛莉 実佳 佳奈 陽菜 ほのか まゆ 麻衣花 小百合 深雅 心乃 菜子 柚乃 千尋 綾美 乃 万結 大翔 皇 駿典 陽香 朝日 美也子 萌 葵 夢 七美 美紀 華音 晴香 佑乃 文子



有象会	川口菜々香	北府	安村春撫	練馬	矢野ことり	杉馬	柳下昂太郎	大田	相澤和	光ヶ丘	岩田志穂	書之会	佐藤昭太	華雪	武藤結香	珠悠	永田のあ	大阪	宮田真緒	美那会	高橋真彩	芙蓉五	齋藤可奈英	照澤学舎	小松百恵	茅野	内田くるみ	右文	伊藤樹里	右文	清水愛奈	大田	小田島彩華	有虹	飯田怜奈	珠悠	塚崎心望	青雲	江尻悠華	月雲	山口心結	美那会	跡部涼々	玄黙	飯島杏奈	有虹	棚澤大和	有穂	山田朱音	大阪	後藤芙雪	芙蓉会一	安田巨輝	皓花	牛丸紗良	芙蓉会一	岡田みゆう	芙蓉会一	安西心音
-----	-------	----	------	----	-------	----	-------	----	-----	-----	------	-----	------	----	------	----	------	----	------	-----	------	-----	-------	------	------	----	-------	----	------	----	------	----	-------	----	------	----	------	----	------	----	------	-----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	------	------	----	------	------	-------	------	------

永らく書象誌の誌上展の形態をとってきた全国学生展ですが、第49回書象展より、上位受賞者の作品を国立新美術館書象展会場の特別コーナーに展示し、多くの来場者から好評を得ています。

来年度の第56回書象展でも今回の学生展の受賞者の作品展示を予定しています。ご期待下さい。

第三十八回

書象土曜会展

会期 平成二十八年十月五日(水)～十月九日(日)  
 会場 銀座・大黒屋ギャラリー一六階

特別出陳 上條信山先生

出品者

- 池上湖心
- 神谷蘭月
- 立花壯山
- 浜野史翠
- 吉見松香
- 小川仙草
- 川原壽石
- 南條素琴
- 松本小光
- 荻野松風
- 鈴木花仙
- 西川江雨
- 村山麗恵
- 山本草心
- 小倉煌雪
- 高橋白羊
- 根岸鈴華
- 山本草心
- 上條窓苑
- 竹内紅雪
- 長谷川石心
- 横山花苑

特別出陳

上條信山先生

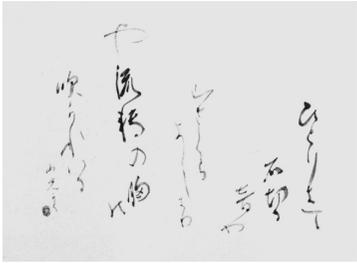


上條信山先生



特別出陳

池上湖心



松本小光



竹内紅雪



山本草心



鈴木花仙

第三十八回

書象土曜会展に寄せて

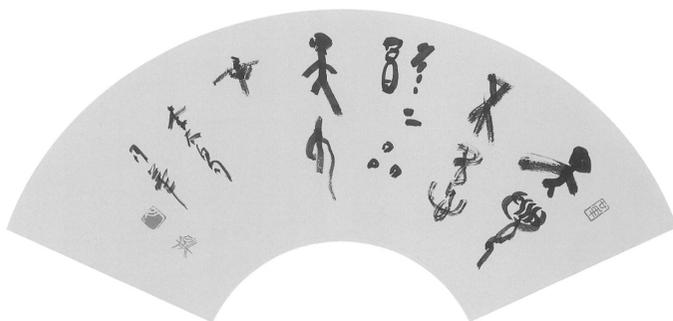
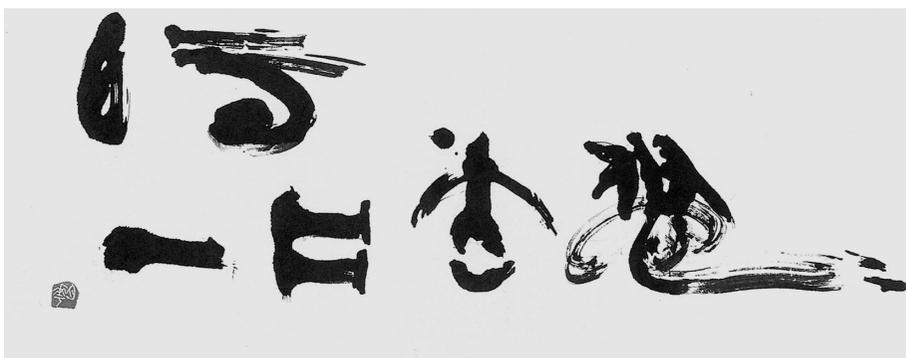
上條 貞子

リオデジャネイロでのオリンピックが無事閉会し、世の中も少し落ちついて来ました。秋に入り書象土曜会は第三十八回目の展覧会を開催することとなりました。田中節山、市澤静山、高田墨山、内藤望山先生の御指導のもと、会員の皆様の努力の結晶を拝見できるところを楽しみにしております。

平成二十八年 十月吉日

# 第11回藤岡月華書展

会期 10月10日～15日  
会場 銀座「新井画廊」



## 「月華ワールド」

秋晴れの十月十日～十五日、銀座「新井画廊」で藤岡月華先生の第十一回書展が開かれました。

銀座の喧噪から一步会場に入ると何とも言えない不思議な空間に息をのみました。

横書きの大作「白雲一片去悠悠」

限りなく空想をかきたてる「天上ないミュージアム フィレンツェの街」

墨色も藍色の一文「藍」

なんて自由で大らかな世界なのでしよう。なんて想像力をかきたてられる作品なのでしょう。私達に生きる力を与えてくれるようです。それらは甲骨文字・隸書・漢字かなまじり文などバラエティに富んでいます。文字でありながら文字を越えた、まるで絵画を見ているような気分になります。太古の昔、中国で最初に亀甲や獣骨に文字を刻んだ人々に思いを馳せながら、私はポーツとしていました。

そこには「書」だけでなく、さりげなく活けられた野の花（勿論先生が育てられたもの）、お酒の瓶に張られた「鳥獣戯画」のラベル、これら全てが自由で大らかな「藤岡月華ワールド」なのです。

この素晴らしい「ワールド」を胸いっぱいにして会場を後にしたのです。

（羽山淳子記）

## 第7回高風書道会展

併設 北藤煌香書作展

会期 十月七日(金)～十日(月)  
会場 谷口文栄堂ギャラリー  
主宰 畑中高山先生

隔年での開催となった高風支部の展覧会も七回を数えることとなりました。福井県内でも信山流書風の書展として定着し、多くの参観者を迎えて盛会に開催されました。

ベテランも初心者も会員全員が参加し、それぞれの作品を精一杯練習して発表しました。県内各書壇の先生方から清冽な書風で明るくすがすがしい書展だと好評を頂き、とても嬉しい四日間でした。

特に今回は『北藤煌香書作展』を併設。煌香さんのこれまでの書業の集大成として、日展入選作品をはじめ数々の代表作を展示し、花をそえて頂きました。また、竹を素材に文字を彫りこんだ筆筒や花器作品も、制作が楽しく、訪れた方々からも面白い企画だと興味を持って頂きました。小中高生の軸作品も壁面一杯に飾り、上達の成果を発表することが出来ました。可愛らしい作品から大人数びた立派な作品まで、今後の成長が楽しみです。

ご覧いただいた方々のお言葉を糧に、より一層の稽古に励み、次回の開催を目指して参りたいと思います。ありがとうございます。

(佐々木芳陽記)



文字を彫りこんだ筆筒や花器の前で



畑中先生と北藤先生(右から2人目)を囲んで

## 原田柳泉先生エイジレス章を受章

書象会審査委員で山形支局の原田柳泉先生が、この度平成二十八年度エイジレス・ライフ(年齢にとらわれず、自らの責任と能力において、自由に生き生きとした生活を送る)を実践している高齢者として、国務大臣、内閣府特命担当大臣よりエイジレス・ライフ章を受章されました。郵政在職中から書道に精進し、地域の学生・一般人に熱心な指導を継続し、書道の普及発展に貢献したこと。また、学生への指導は、基本の書写、小中学校指導要領により行い、技量を磨くと共に、人間形成のための忍耐力・礼節を重んじる指導を行っていることなど、書道芸術の向上・発展を通じ地域貢献に尽力している功績が認められたものです。心よりお祝い申し上げます。



エイジレス章の表彰状と楯

# 木曜会 古典臨書作品

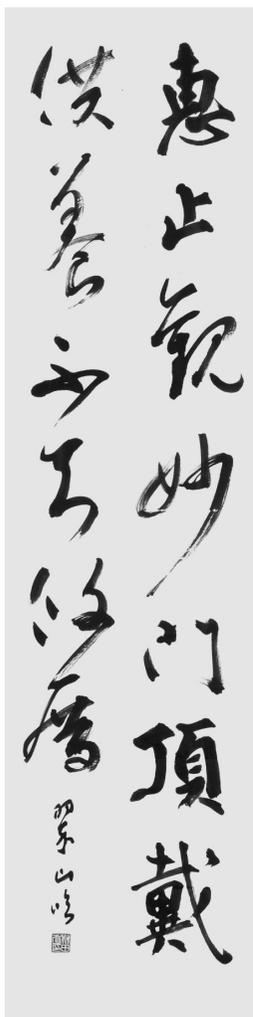
木曜会は通常は古典研究の発表の場です。大きな展覧会出品時は作品研究です。作品づくりに古典研究なくては深化はありません。その研究成果をご覧下さい。

苕溪詩卷 (北宋 米芾)



竹内 藍山

風信帖 (平安 空海)



林田 翠山

祭姪文稿 (唐 顏真卿)



竹内 墨洋

書体は行書で単体がほとんどであるが、行意を失ってはいない。晋人の書を基調とし、右肩上りで左傾し、頭部を重くする結構が特徴である。

この臨書は全体に太い線で統一され、墨量豊かでありながら鈍重に落ち入らずに、明るく爽快に書き上げた手腕を評価したい。

(解説 二瓶嶽風)

風信帖は国宝として、時折展覧会などで真跡を拝観する機会がある。この臨書作品は、形は写実的でよいのだが、全体観として中心線一貫が今一步、行間が不統一だ。伸びやかな運筆は作者持ち前の自由闊達さが生かされて秀逸である。

(解説 虎井曉鐘)

この作家は顔真卿行書の研究が進み、近年は中央展においても、顔真卿を入れた創作に取り組んでいる。この臨書作品は古典に束縛されることなく、運筆は自然な抑揚の変化を生み、心地よいリズムが出ている。

(解説 市澤静山)

書象会通信条幅研究会課題の解説（平成二十八年十一月～平成二十九年一月まで）



信山流

文字の中心を垂直に通すのは当然のこととして、上の字のどの点画が下の字のどの点画に対応しているかを見きわめておくと、縦への流れがスッキリします。試しに縦画系の点画にA・Bと記しました。参考にしてください。  
一字一字の形の確かさも大切ですが、「流れの形」も意識してみましよう。

隷書

今回の課題は縦長になりやすい字形ですが、隷書の特徴である扁平な形になるよう意識して書いてみましょう。  
 ・「十」リッシンベンが二つ出てきますが筆順を間違わないように。  
 ・「時」の字の「寸」の二画目縦画は、曲げすぎないように。  
 ・「聽」の「耳」の部分は筆順に注意して書きましよう。  
 ・「琴」最後は重くならないように軽くまとめる。

仮名

今回は、連綿が多くかつ振幅の変化も大きい作品です。しっかり腕を動かして書いてみましょう。  
 ・わがあ遊み千…「あ」と「遊」の位置に留意し「千」を伸びやかに。  
 ・可づ支ぬらし松原の…ここで含墨し、「らし」は筆を開いて連筆し、「松原」は違和感の無い大きさを配置する。  
 ・の木能万二悲々…縦へのリズムを意識し、筆を開いて一気に連綿を熟す。  
 ・山可者の音…少々含墨し、「山・の・音」は振幅を意識して、リズムカルに連筆する。

# 特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

## 特待生合格

霞墨支部 中一

木幡 雅也



僕は、小学校の時から書道を始め、特待生に合格することができました。部活動で大切な時もあるけど先生の指導のおかげで合格できたのだと思います。これからもさらに上を目指してがんばります。  
支部長先生より一言 大人も驚く位、始筆終筆が、しっかりとして上手です。先生達も応援しています。おめでとう。

## 素晴らしい称号

汀楓支部 中三

杉野 奈桜



今回、特待生という素晴らしい称号を頂き、本当に嬉しいです。特待生になれたのは、熱心にご指導いただいた先生と応援してくれた家族のおかげです。ありがとうございます。  
支部長先生より一言 合格おめでとう。アーリントンに短期留学し、書道を披露してきた奈桜ちゃん。将来が楽しみです。

## 感謝

名東支部 中三

小倉 妃菜



私は小学校二年生から習字をやってきました。途中で転校し、自分で時間を作るのが難しく、先生にたくさん迷惑をかけてしまいました。そんな中、ここまでくれたのは、先生のおかげです。本当に感謝しています。  
支部長先生より一言 硬筆特待生合格おめでとう。中一の途中で名古屋から静岡に転校。通信でよく頑張りましたね。

## 日々成長

有家支部 中三

小出 瑞季



私は中学生になり部活動や他の習い事で思うように習字ができていませんでした。そんな中でもしっかりと教えてくださった先生に感謝し、少しずつでも続けていきたいです。そして、これからも日々成長したいです。  
支部長先生より一言 おめでとう！忙しい中、来た時は一生懸命書いていましたね。この努力は得難いものです。ピース。

## 感謝

湊支部 中二

志渡 美紅



小学校の時から続けてきた書道で特待生になることができて、とても嬉しいです。これまで指導してくださった先生に感謝して、もっと良い字が書けるように頑張っていきたいです。  
支部長先生より一言 練習で遅くなくても休まず稽古に通って来た努力が実を結びました。今度は硬筆に挑戦。頑張れ!!

## 念願の特待生

名東支部 中三

北條 果乃



私は小学三年から書道を始めました。今回、念願の特待生になることが出来嬉しいです。ここまでこれたのは先生のおかげです。感謝しています。次は硬筆で特待生を取れるように毎日コツコツ頑張りたいです。  
支部長先生より一言 小三からの特待生合格すばらしいです。部活後に休まず通った努力のたまものです。おめでとう!!

## 二回目の特待生

高社支部 中二

富岡 愛香



私は前回の特待生試験で毛筆で特待生になり、今回は硬筆で特待生となりました。今まで小一の頃から書道が続けてきて本当によかったと思います。これからさらさらに上手になるように日々精進していきたいです。  
支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。日頃の取り組みの成果ですね。今後みんなのお手本となるよう頑張ってください。

## 先生と両親のおかげ

城彩支部 中二

浜田 郁南



小学校一年になるときに書道を始め、やっと特待生になる事ができました。部活もあって休んだ日も多かったです。頑張ってきたのは、先生と両親のおかげです。毛筆も頑張ります。ありがとうございます。  
支部長先生より一言 三人姉妹の長女として妹たちを引っ張り、学校や部活との両立もできています。更なる飛躍を望みます。

## 両立

芙蓉第二支部 中二

鈴木 寛夢



僕は、幼稚園の年長から習字をやってきました。中学生になってからは、部活との両立が難しく、あまり練習ができませんでしたが、特待生に合格出来て本当に良かったです。ご指導いただいた先生に感謝いたします。  
支部長先生より一言 中学生になりあまり稽古が出来ない日がありましたけれど部活と両立で良く頑張ったね。今後期待しますよ。

# 特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

## 目標



有象支部 中二

尾野 莉有

私は小学校二年生から書道を始めて、今回目標にしていた特待生になることができて本当に嬉しいです。ここまでこれたのはご指導をさせて頂いた先生のおかげです。本当に感謝しています。  
支部長先生より一言 おめでとぅ！次は毛筆ですね。部活等の両立も中々大変な中、いつも黙々と書きあげます。頑張って！

## 特待生になって

美菜支部 中三

池田 華音



小学校三年生から書道を習い始め、目標としていた特待生になることが出来たと嬉しかったです。熱心にご指導して下さいました先生や、毎週、送り迎えをしてくれた母に感謝しています。次は硬筆の特待生合格を目指します。  
支部長先生より一言 お稽古熱心な華音ちゃん、中学生になってからは忙しくて大変そうでしたが遠路よく頑張りましたね。

## 支え

愛心支部 中二

佐藤 夏



毛筆に続き、硬筆も特待生になることができ、とても嬉しいです。先生、周りの方の支えがあったからこそだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。今後、更に上を目指して、日々努力していきたいです。  
支部長先生より一言 バレーとの両立は大変でしたね。よく頑張りました。これからも夢に向かって前進して下さい。

## 特待生になって



芙蓉第二支部 中三

松永 英樹

僕は小学三年生から書道を始めて、七年目で、ついに特待生になることが出来、とても嬉しいです。中学生になり部活で思う様に練習出来ませんでした。先生のお陰で特待生になりました。ありがとうございます。  
支部長先生より一言 お父さんに送り迎えをしてもらって七年、本当によく頑張りました。お父様に感謝！今後頑張ってネ。

## 夢の特待生！

杉支部 中二

西野 月



幼稚園の頃、姉と通い始めた書道。長年続けてこられたのは、常に優しく、時に厳しく書道の楽しさを教えてくださった杉山先生のおかげです。これからも、二冠を目指し、ますます張り切って頑張りたいと思います。  
支部長先生より一言 辛い事も楽しい事もいろいろありましたが、良く頑張りましたね。更なるステップへ！！おめでとぅ！

## 感謝

土筆支部 中三

梅林 遼平



僕は、今まで小学校の一年生からの九年間、先生に書道を教わっています。特待生になれたのは先生に教わったからです。なので先生に感謝してこれからも書道を頑張っていきたいです。  
支部長先生より一言 硬筆合格おめでとう。次は毛筆ですね。受験勉強の忙しい中、頑張る遼平君をこれからも応援します。

## 継続は力なり



山愛支部 中三

丸山 みのり

同級生と始めた書道でしたが、今は年下ばかりです。そんな中で特待生になることができ、「継続は力なり」だな、と嬉しく思います。ここまで御指導くださった先生方に感謝し、これからも精進していきます。  
支部長先生より一言 中学生一人の中で、よく頑張りました。大人になった時に、きれいな文字が役立ちますように。

## 次は毛筆

大阪支部 中二

岡本 紗弥



私は小学校一年生の頃から習字を習い続けてきました。だんだんと級が上がるごとに上の級を目標にがんばってきました。中学生になってからは部活との両立が大変でしたが、特待生になれたので、次は毛筆をがんばります。  
支部長先生より一言 いつも静かに真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。おめでとう。今後も期待しています。

## 喜び

サン支部 中三

渡辺 彩乃



私は小学校入学と同時に書道を習い始めました。そして今回、目標としていた特待生になることが出来ました。書道と部活や勉強との両立は難しかったけど、諦めずに頑張れて良かったです。先生にとっても感謝しています。  
支部長先生より一言 特待生おめでとう。部活で遅くなくても休まず頑張りましたね。将来が楽しみです。

# 少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

玄嶽支部

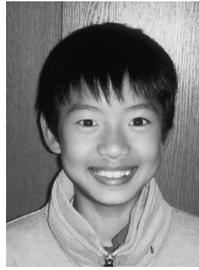
小六 岩田 穂乃花



絵やお習字が得意な穂乃花さん。ピアノや和太鼓も習っています。小一からお母様と教室に通い、真面目にお稽古をしています。特待生になってください。

美那支部

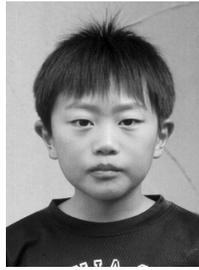
小四 湯川 稜太



書道のお稽古が終わるとサッカーへ。サッカー大好きな稜太君の夢はもちろんサッカー選手。書道もだんだん集中力がついてきて上手な字を書いています。

紅竹支部

小五 深井 寛人



小学校一年生よりサッカー教室に通う明るく活動的、しかもデリケートな寛人君。最近、しっかりした線が書ける様になりました。今後がとても楽しみです。

りんりん支部

小六 早川 実桜



年長さんから書を始め、頑張っています。まわりへの配慮がよくでき、学校でも指導的立場にたって活躍しています。利発で正義感が強くしっかりしています。

伊奈支部

小三 山田 悠菜



人一倍頑張る屋さんで、気になることは解決してから何事にも取り組む悠菜ちゃん。好きな科目は図工。これから期待しています！

高社支部

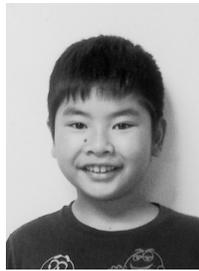
中一 青柳 佑奈



ご近所で小さな頃からのお付き合いの佑奈さん。運動神経が良くても器用に熟す彼女は書道の腕前も抜群。今後成長を楽しみに見守っていますね。

大田支部

小六 古張 暖翔



お兄ちゃんと通っていた小さい暖翔君。今ではすっかり逞しくなりました。水泳ではクールの自己更新に挑戦中。頑張りが文字にも表れています。

龍文支部

小三 齋藤 一葉



明るく元気な一葉ちゃんは几帳面で繊細な一面も。物事に取り組み集中力は抜群。また、水泳や徒競走等スポーツにも長けている魅力的な女の子です。

この葉支部

小六 坂口 菜々子



弟妹思いの菜々子ちゃんは塾に通いながら書道も休まず来てくれます。記憶力抜群の正汰君は繊細な心の持ち主。仄々とした字で和ませてください。

上尾支部

中一 北村 匠伍



得意科目は「数学」部活動は卓球、楽しく取り組んでいます。趣味はスキー。学習塾に忙しい日々ですが目標達成の為前進/書道に対する姿勢も抜群です。

北府支部

中二 鍋島 誠登



学校ではテニス部で活躍しています。歴史が大好きで、明るく真面目な好人物。両立が大変な中、お習字も休まず頑張っていて将来が楽しみです。

上尾支部

小三 千田 愛莉



図工が大好き。書とピアノ、スイミングのおけいこを頑張っています。お母さんのお手伝いも出来ます。明るくお話しが好きで文字もしっかり書きます。



△漢字条幅▽ 評 成瀬 恵苑

錦織明花 豊潤な表現に深みと骨力のある作品。

上條恵香 墨痕あざやかで、印象に残る風格ある作。

上條賢山 歯切れのよい筆緻と力強い骨格が見事。

中内真意 求心力のある結体、貫通力と緊張感有り。

塚原花瑠 懐の大きい躍動する書。豊潤さもよい。

赤羽博山 基本点画に忠実な力のもった秀作。

中井陽理 大きな腕の動きで大胆な表現になった。

坂井蒼峯 写実に徹し、腕法が効果的。品格高し。

△仮名条幅随意▽ 評 杉山 窓影

松尾小楓 形の流麗さと全体感の良さが光る。

中島西英 芯のある強い線で緊張感に満ちた作品。

宿谷硯心 渴筆を効果的に取り入れ変化に富む。

△通信条幅▽ 評 大澤 梢光

上島畫膏 甘さのある線の中にキレがあり美しい作。

嶋埜重玉 横画の強さが紙面を引き締めている。

三浦怪石 潤渇の変化で作品に立体感を見せた。



基本課題

評 柳澤 玄嶽

高平光紗 腕法が効いて。形線とも研究の跡あり。  
 関澤劔山 写実に徹し、切れ味の鋭い線でもとめた。  
 天谷茜草 豊かな墨量と正確な藏法で線に厚み有り。  
 木本彩暉 線質爽やかで、全体観、形技群の出来。

研究課題

評 恩田 静月

小 琳 墨量豊かに、大小の変化をつけた秀作。  
 肖 栄 大胆な筆致で雄大に書けている。大佳。  
 優 月 リズミカルにまとめられた作。この調子。  
 汐 香 濃淡、線の細太が出来ている作品です。

古典研究

評 久保 妍山

秀 華 本人の意図した作品に出来上がっている。  
 菖 風 左払いの変化をつけてまとめられた作。  
 翠 花 筆の毛質をうまく生かして書けている。  
 翠 嵐 動きのある線で全体感よく構成した作。

師範部

〈行書〉

評 柳澤 玄嶽

林田翠山 鍊度のある線質で味わい深く、品格の作。  
 高橋太一 直接的で力強さがあり、筆勢ある作。  
 日比野照悦 腕がよく動き、躍動感と骨力を感じる。  
 関 珠蘭 墨豊かに安定した筆遣いで落ち着き有り。  
 杉本統華 筆の弾力を十分に駆使し、変化に富んだ。  
 笹川文字 厳格な点画の連筆に正確な字形把握佳。  
 石沢秀庭 字間の響き良く、余白美を生かした作。  
 田村光帆 正確で安定した筆遣い。忠実な臨書態度。



大島翠選 さわやかで巧まざる姿勢が好ましい。

佐々木永翠 明るく軽快なリズム、無難にまとめた。

吉池採舟 ねばり強く抑揚の変化に富む豊かな線。

岸葉草 正確かつ静かな動きで品よくまとめた。

溝口道幸 瑞々しい線質で全体感も見事に纏めた。

小澤通明 素直な筆遣い。写実的で誠実な作品。

武次壺晶 粘着力のある充実した点画と豊かさ妙。

中山美恵子 日頃の精進が窺える心に迷い無き作品。

△仮名▽ 評 荻田 光山

清 玄 墨色の変化と素朴な線の味わいが大佳。

想 花 軽やかな運筆が無駄のない作品に昇華。

寿 雅 構成の妙と行間の美しさが際立つ秀作。

梢 陽 半紙の紙面全体を上手に生かした好例。

佐 美 淡墨の味わいと線太な表現がマッチした。

涼 華 渴筆に線の強さが出て、行に勢いあり。

素 舟 筆の持つ柔軟さを生かした秀作。

泰 泉 力味がなく、自然な味わいの出た佳作。

太 一 濃墨を墨色の変化で生かした見事な例。

康 絹 太い線と細く生きた線がすばらしい一作。

樹 光 純で朴なイメージが全体に流れる佳作。

敦 子 一字一字のふところ深く、大きさあり。

上尾中三長谷川勇太 競走	二年 山崎こう太 と足あ	小四 中嶋 彩子 け夕や 空	小六 竹内そのか 出雲 大社	秋空渡 り鳥 中二 特待生 渡辺紗衣
小六 吉井理紗 過去	と足あ 小ニ えれん	四年 才木 優芽 け夕や 空	小六 向井香沙音 出雲 大社	秋空渡 り鳥 久喜 中二 藤澤こと葉
四年 菊地あられ 高	四下 ちは ふえ	小三 宮澤 香帆 み山 じも	小五 飯田 怜奈 虫鳴 く夜	灯火親 しむ 中一 準七 高須 亮太
小ニ 才木ゆう太 月	小一 よしのまな ふえ	小三 千田愛莉 み山 じも	小五 心結 虫鳴 く夜	灯火親 しむ 中一 日那

学生部

評 藤岡 月華

渡辺紗衣 一字一字でいねいに、しっかり書けた。  
 藤澤こと葉 名前まで気を抜かず、きちんと仕上げた。  
 高須亮太 堂々として点画も確かで、立派です。  
 高野日那 引きしまった線の書きぶり見事。  
 竹内そのか 紙面を上手に使って、大変形よく出きた。  
 向井香沙音 どっしりとして、名前まで気をぬかず佳。  
 飯田怜奈 余白を上手に使い、線質ともに美しい。  
 山口心結 明るく、すなおに書けた。  
 中嶋彩子 大きくのびやかで、立派にかけた。  
 才木優芽 一画ごとにいねいにきちんと書けた。  
 宮澤香帆 生き生きとした線で、思い切って書けた。  
 千田愛莉 形よく丁寧な心がかもってよい作品。  
 山崎康太 いきおいがあり、なまえもりっぱ。  
 小椋夏恋 かわいらしい顔が、目に浮ぶよう。  
 上島千歩 力強く、形もよくりっぱな作。  
 吉野麻奈 一生けんめいさがつたわってくる作。

半紙 随意

評 大賀 霞泉

長谷川勇太 行意をたくみに表現出来ました。  
 吉井理紗 形よし。起筆、終筆が素晴らしい。  
 菊地あられ あたたく落ちついて書けました。  
 鈴木雄太 すんだ夜空に十五夜の月がみえたよ。

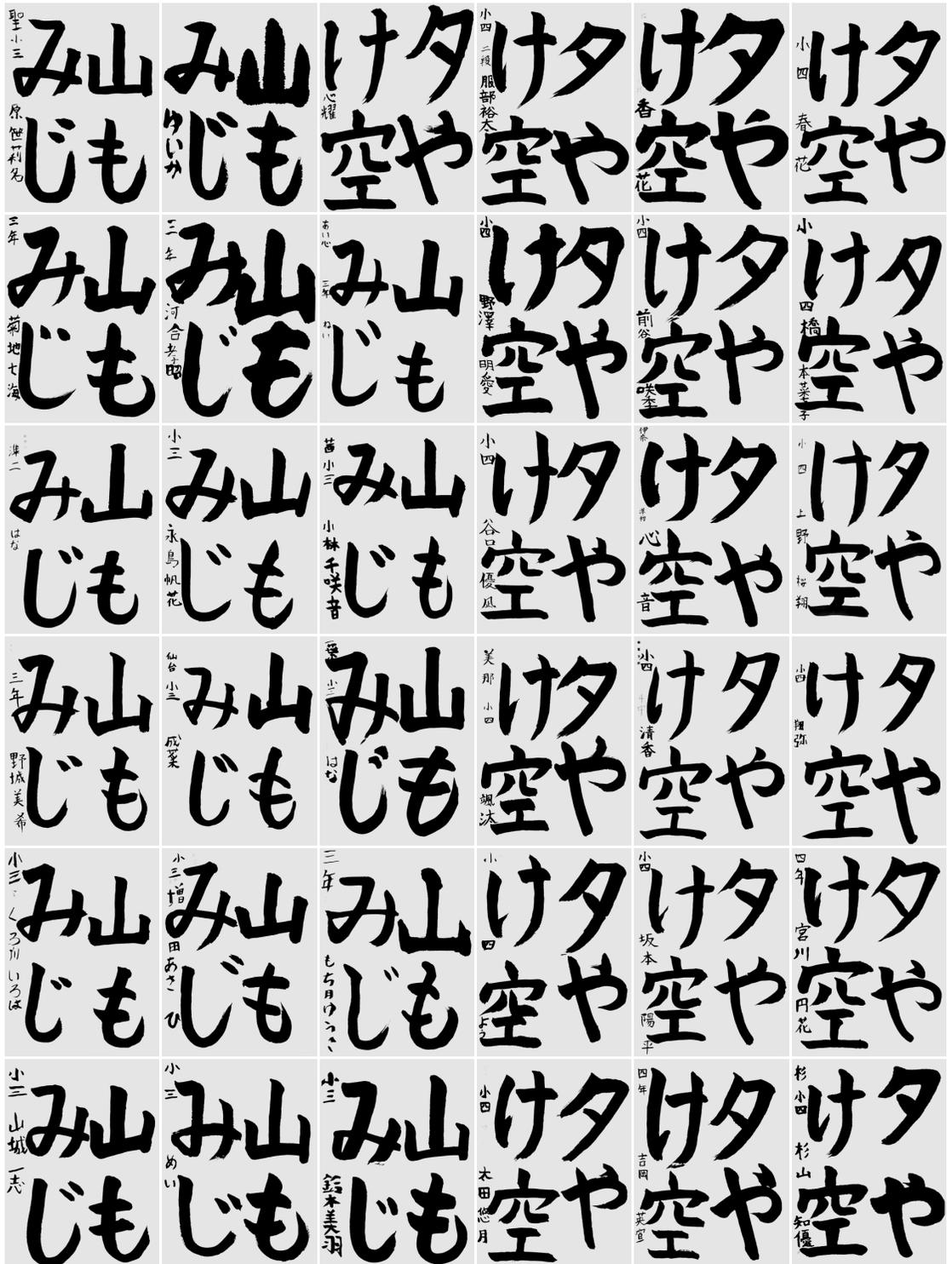
このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。



小六 出雲 大社	新中三特符重松千尋 り鳥 秋空渡	土筆 中二 伊藤里筆 り鳥 秋空渡	しむ 中一 灯火親	しむ 中一 灯火親	しむ 中一 灯火親	しむ 中一 灯火親
小六 出雲 大社	中二 都築楓花 り鳥 秋空渡	中二 俊維 り鳥 秋空渡	船橋中一 加藤広望 しむ 灯火親	しむ 灯火親	しむ 中一 灯火親	中一 萩尾朋香 しむ 灯火親
小六 出雲 大社	中二 千伶 り鳥 秋空渡	中二 長谷川 柚季 り鳥 秋空渡	松戸 中一 樹哉 しむ 灯火親	しむ 灯火親	中一 五段 小棚 しむ 灯火親	小六 沼五 琴実 出雲 大社
小六 出雲 大社	三年 小松崎優実 り鳥 秋空渡	中三 渡会ひいろ り鳥 秋空渡	中 小林有衣 しむ 灯火親	しむ 灯火親	中一 武尊 しむ 灯火親	小六 小林心美 出雲 大社
小六 出雲 大社	中三 彩水香 り鳥 秋空渡	龍文 幸乃 り鳥 秋空渡	中一 古池理乃 しむ 灯火親	しむ 灯火親	六年 三川優羽奈 出雲 大社	小六 池田夏緒 出雲 大社
龍文 うちら 出雲 大社	中二 花帆 り鳥 秋空渡	中二... 深野奈花 り鳥 秋空渡	中一... 千寿 しむ 灯火親	しむ 灯火親	小六 希乃 出雲 大社	小六 佐々木野乃華 出雲 大社

〔毛筆〕  
 新中三 重松千尋  
 中央 都築楓花  
 若松 田村千伶  
 荷葉 小松崎優実  
 静地 内田彩水香  
 宮地 渡辺花帆  
 土筆 伊藤里筆  
 ひま 赤坂優維  
 たけ 長谷川柚季  
 若竹 渡会ひいろ  
 龍文 菊地幸乃  
 華雪 深野春花  
 大田 笹川理佳  
 船橋 加藤広望  
 松戸 杉本樹哉  
 光丘 小林有衣  
 大象 古池理乃  
 華雪 菅井千寿  
 皓花 中村莉子  
 虹苑 萩尾朋香  
 綾華 本間小柳  
 静 山田武尊  
 〔小六〕  
 硯 三川優羽奈  
 みな 石川希乃  
 茅野 黒澤美月  
 東陽 細野夏歩  
 御代 水上琴美  
 城彩 小田心美  
 硯扇 池田夏緒  
 瑞祥 佐々木野乃華  
 蓮田 津秋帆希  
 高風 川崎陽菜  
 有象 羽田日葵  
 龍文 川口菜々香  
 古内うらら





富士	飯田	平成	美二	富貴	聖	中野	照澤	仙台	杉月	サン	霞墨	神奈	一葉	茜	愛心	山愛	青雲	中野	美那	名東	硯扇	曉華	美苑	たけ	華雪	伊奈	玄黙	一繪	杉	平成	玄嶽	若竹	八潮	有徳
山城	黒川	野城	大嶋	菊地	原笹	藤木	増田	千川	永島	河合	石垣	鈴木	望月	高橋	小林	佐藤	木村	太田	塩川	原	野澤	服部	吉岡	坂本	谷崎	谷口	前谷	薄井	杉山	平川	永沼	上野	橋本	新田
一志	彩晴	美希	花菜	七海	莉名	芽生	原成菜	帆花	孝昭	結花	美羽	佑粹	はな	千咲音	寧	心耀	悠月	葉	颯汰	優風	明愛	裕太	英宣	陽平	清香	心音	咲季	香花	知優	翔花	翔弥	桜翔	七子	春花

小一 ふえ あいたす	と足あ 小二 原巧	と足あ 七下 なつみ	山み 小三 岡本優奈	山み 小三 牧野莉子	山み 小三 直穴
小一 ふえ ゆづき	小二 ふえ はしももめ	と足あ このは ゆつと	山み 小三 隼真	山み 大坂 じんご 中村このみ	山み 小三 大が しゅうが
二 中 ふえ ここね	一 ねん ふえ あいり	と足あ 岳木 小二 しゅうのみ	山み 小三 岡村千伶	山み 小三 光 翔	山み 小三 李光 三平 下ヤクウ
八 下 ふえ かいと	ふえ なご	と足あ 小二 し水 ち早	と足あ 小二 いろは	山み 小三 原田 るな	山み 三年 成田 しおり
小 まつもと あか	ふえ ゆづき もりま	と足あ 小二 ほりえ みく	と足あ こら ゆう 小二 かまた ゆいか	山み 小三 このの	山み 小三 興田 珠徳
一 ねん 七 甲 や	ふえ おおく か かま はらの	と足あ 小二 寺沢 留米 之介	と足あ 小二 初風	山み 小三 山端 小夏	山み 小三 みの もり よう太

皓花	秀雪	石峯	芙二	華雪	光丘	大阪	龍文	若松	霞湊	霞墨	秀雪	妻科	霞墨	蔵	一葉	この	芙二	虹	華雪	華雪	一絵	杉	前原	月	練馬	有虹	大阪	凜心	北府	和	シ	李光	有象	竹華
藤木	松本	関根	安西	長島	小椋	鎌部	小口	恩田	小林	小林	原	寺澤	堀江	清水	柳	池辺	高梨	森田	鎌田	齊藤	岡村	岡本	山端	山口	原田	野崎	中桐	牧野	蓑毛	奥田	成田	中川	大塚	三原
さや	彩花	快仁	心音	柚月	愛夏	花埜	遠	達	愛莉	百花	巧	美来	智早	龍之介	悠斗	なつみ	朔風	唯花	彩華	千怜	真	優奈	小夏	采実	流奈	光翔	莉子	莉太	珠徳	しおり	さくら	終	直亮	

遙くゆく書の形はふらふらいい  
さくら糸のつぼく〜さくら  
円形の〜と言えらる。師強月

和紙をすくのに一番大切なものは  
きれいな水、きれいな空気、そして  
美しい心です。 八潮中三六段  
手島貴子

話し手の説明や報告について  
気付いたところは提案や  
助言をしよう。 伊奈五持  
腰塚帆夏

話し手の説明や報告について  
気付いたところは提案や  
助言をしよう。 手成五  
星見愛心

雲ひとつない野原の真ん  
中で大きく手を広げて息  
をすいこんだ。 美野四半  
八代美波

町のにおまつりでは  
子どもみこしをか  
つぎます。 ゆうと

町のにおまつりでは  
子どもみこしをか  
つぎます。 二  
青木佑

遙くゆく書の形はふらふらいい  
さくら糸のつぼく〜さくら  
円形の〜と言えらる。望山

和紙をすくのに一番大切なものは  
きれいな水、きれいな空気、そして  
美しい心です。 霞墨中一  
市村彩乃

話し手の説明や報告について  
気付いたところは提案や  
助言をしよう。 松宮  
松宮 駿太

話し手の説明や報告について  
気付いたところは提案や  
助言をしよう。 北反五  
白井まみ

雲ひとつない野原の真ん  
中で大きく手を広げて息  
をすいこんだ。 山本二  
渡辺百合菜

町のにおまつりでは  
子どもみこしをか  
つぎます。 くき  
しやしやまか

町のにおまつりでは  
子どもみこしをか  
つぎます。 二  
あさみすず

人との繋がりが増えてくる時代に  
大切にしたいのは情勢的なまで  
の出会いと思いやりだ。 美藤  
美藤 美

和紙をすくのに一番大切なものは  
きれいな水、きれいな空気、そして  
美しい心です。 筆堂  
筆堂 中二  
鈴木心響

話し手の説明や報告について  
気付いたところは提案や  
助言をしよう。 名史五  
黒田千尋

話し手の説明や報告について  
気付いたところは提案や  
助言をしよう。 晴美五  
佐々木 共生

雲ひとつない野原の真ん  
中で大きく手を広げて息  
をすいこんだ。 サノ  
山本 未原

町のにおまつりでは  
子どもみこしをか  
つぎます。 三  
三よも

町のにおまつりでは  
子どもみこしをか  
つぎます。 結花  
結花 良

和紙をすくのに一番大切なものは  
きれいな水、きれいな空気、そして  
美しい心です。 凛心  
凛心 中二  
大森若奈

和紙をすくのに一番大切なものは  
きれいな水、きれいな空気、そして  
美しい心です。 大衆中二  
古川 遥

話し手の説明や報告について  
気付いたところは提案や  
助言をしよう。 土筆六  
和田美颯

雲ひとつない野原の真ん  
中で大きく手を広げて息  
をすいこんだ。 玄黙四  
飯島杏奈

〔硬筆〕

〔一般〕

- 石峰 金澤 瑠月
- 巍山 林田 翠山
- 玄樸 川田かりん
- 【中学】
- 凛心 大森 祐奈
- 八潮 手島 貴子
- 霞墨 市村 彩乃
- 華雪 鈴木 心響
- 大象 古川 遥
- 【小五・六】
- 伊奈 腰塚 帆夏
- 練馬 松宮 駿太
- 名東 黒田 千尋

〔小三・四〕

- 土筆 和田 美颯
- 平成 星見 愛心
- 虹友 白井 まみ
- 晴美 佐々木 共生
- 【小三・四】
- 玄黙 飯島 杏奈
- 美那 八代 美波
- 山愛 渡辺百合菜
- サン 山本 茉凜
- 【小一・二】
- 書之 西村 友翔
- 久喜 橋谷沙々花
- 暁華 三上桃絵果
- 有象 松井 太佑
- 若松 青木 美鈴
- 皓花 牛丸 紗良















Table with multiple rows and columns containing names, symbols, and numbers. The table is organized into sections by row, with various symbols like stars and triangles interspersed among the text. The names are arranged in a grid-like pattern, often with smaller text or symbols above or below them.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。



小光・城彩・松聲・知床・新城・瑞祥・杉・須坂・鈴鹿・硯・青雲・正桂・成城・静翠・石峯・仙台・蒼穹・大家会・たけのこ・竹華・千由・茅野・中央・長寿原・月・土筆・汀楓・照澤・東陽・内藤

5	特1準準四	8 7	3 2 2 8 7 6	3 2 1 準 6 準準四	初 1	四	準 3 特	1 三六特五準五	準 7	五 6	8 7 2	
中	1 中三四段	知床支	上下	上下中下上下	上上中初下三四段	中段	五松聲	2 上段段	2 段七段	八城級	級中	上下中
濱濱矢瀛加	湯河小相宮古酒廣湯大込筒野田齋明澤中大橋在齋滝吉中小土橋支山平本小西浜池平浜村大浜支井大井吉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
嶺崎野崎賀葵通	村本松原山井部本森宮屋口村藤石野藤森原藤久居野松橋本部中田柳原田田久田部田角上成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
有佳太蔵古	給恭妮瑠凌佳心沙詩光璃麗美悠優蒼理梨颯楓吹美愛愛杏 愛賢悠諒光奈夏逢蓮幸花保剛 此な結通	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
準特	3 特初	6	3 1 7 6 2	特 2 1 初準準	三四準四特	8 2 8 準特	7 5 3 8 4 3 3 準3	三四準二六	準 7	特	7 初 8 6	
八待	級 1 段	下	下上上下上	1 段四五	段段五待	瑞級級級	2 上中	中下中下中	中五中下段	八 待	新級級級	中下
川佐藤	林森長	硬筆	林坪津大米早森吉松長古福大津野小安福服	○	○	○	○	○	○	○	○	○
乃由	玲悠谷	玲井秋隅山川悠田久谷藤元鹿秋未坂形元部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
乃由	奈翔和	奈愛風捷奈智翔松陽和大碧瑠帆弥亜朱希桃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6 8 準準初二	六	特 5 準四準	8 7 8 7 6	8 4 特準 8	7 7 5 2 初	準準 8 5 3 3	特二	三四準四準	8 4 5	4 3	七準五	
上上三四段	段	須級二初	下中下上	中下上	中下上	中上上	上段	二四下中中上	1 段	下二段五級級級	級級 段八段	
滝田滝高加開	高開堀松坂	坂後後桑石	坂坂小池渡松柴十岡久小酒小藤森南	○	○	○	○	○	○	○	○	
澤錦澤橋合橋	合内本部田藤原	黒結田川會尾崎郎本大井倉田結友田下藤原山黒村原本島田川賀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
愛歩松寛	心大優彩那	史大雅侑 蒼結史舞楓	青み社優楓	青み社優楓	青み社優楓	青み社優楓	青み社優楓	青み社優楓	青み社優楓	青み社優楓	青み社優楓	
8 8 準準六	準二 3 8 3 1 特	準二準	四 準 準	六特初準四準準四特二	四 準特	8 7 7 6 7 7 6 5 5 4 4 2 1 1 特準準準	8 7 7 6 7 7 6 5 5 4 4 2 1 1 特準準準	8 7 7 6 7 7 6 5 5 4 4 2 1 1 特準準準	8 7 7 6 7 7 6 5 5 4 4 2 1 1 特準準準	8 7 7 6 7 7 6 5 5 4 4 2 1 1 特準準準	8 7 7 6 7 7 6 5 5 4 4 2 1 1 特準準準	
中下	中初二下初段段上段下	1 初段四 段五 段六 段一	段二 段三 段四 段五 段六 段七 段八 段九 段十 段十一 段十二 段十三 段十四 段十五 段十六 段十七 段十八 段十九 段二十 段二十一 段二十二 段二十三 段二十四 段二十五 段二十六 段二十七 段二十八 段二十九 段三十 段三十一 段三十二 段三十三 段三十四 段三十五 段三十六 段三十七 段三十八 段三十九 段四十 段四十一 段四十二 段四十三 段四十四 段四十五 段四十六 段四十七 段四十八 段四十九 段五十 段五十一 段五十二 段五十三 段五十四 段五十五 段五十六 段五十七 段五十八 段五十九 段六十 段六十一 段六十二 段六十三 段六十四 段六十五 段六十六 段六十七 段六十八 段六十九 段七十 段七十一 段七十二 段七十三 段七十四 段七十五 段七十六 段七十七 段七十八 段七十九 段八十 段八十一 段八十二 段八十三 段八十四 段八十五 段八十六 段八十七 段八十八 段八十九 段九十 段九十一 段九十二 段九十三 段九十四 段九十五 段九十六 段九十七 段九十八 段九十九 段一百	初段四 段五 段六 段一	段二 段三 段四 段五 段六 段七 段八 段九 段十 段十一 段十二 段十三 段十四 段十五 段十六 段十七 段十八 段十九 段二十 段二十一 段二十二 段二十三 段二十四 段二十五 段二十六 段二十七 段二十八 段二十九 段三十 段三十一 段三十二 段三十三 段三十四 段三十五 段三十六 段三十七 段三十八 段三十九 段四十 段四十一 段四十二 段四十三 段四十四 段四十五 段四十六 段四十七 段四十八 段四十九 段五十 段五十一 段五十二 段五十三 段五十四 段五十五 段五十六 段五十七 段五十八 段五十九 段六十 段六十一 段六十二 段六十三 段六十四 段六十五 段六十六 段六十七 段六十八 段六十九 段七十 段七十一 段七十二 段七十三 段七十四 段七十五 段七十六 段七十七 段七十八 段七十九 段八十 段八十一 段八十二 段八十三 段八十四 段八十五 段八十六 段八十七 段八十八 段八十九 段九十 段九十一 段九十二 段九十三 段九十四 段九十五 段九十六 段九十七 段九十八 段九十九 段一百	初段四 段五 段六 段一	段二 段三 段四 段五 段六 段七 段八 段九 段十 段十一 段十二 段十三 段十四 段十五 段十六 段十七 段十八 段十九 段二十 段二十一 段二十二 段二十三 段二十四 段二十五 段二十六 段二十七 段二十八 段二十九 段三十 段三十一 段三十二 段三十三 段三十四 段三十五 段三十六 段三十七 段三十八 段三十九 段四十 段四十一 段四十二 段四十三 段四十四 段四十五 段四十六 段四十七 段四十八 段四十九 段五十 段五十一 段五十二 段五十三 段五十四 段五十五 段五十六 段五十七 段五十八 段五十九 段六十 段六十一 段六十二 段六十三 段六十四 段六十五 段六十六 段六十七 段六十八 段六十九 段七十 段七十一 段七十二 段七十三 段七十四 段七十五 段七十六 段七十七 段七十八 段七十九 段八十 段八十一 段八十二 段八十三 段八十四 段八十五 段八十六 段八十七 段八十八 段八十九 段九十 段九十一 段九十二 段九十三 段九十四 段九十五 段九十六 段九十七 段九十八 段九十九 段一百	初段四 段五 段六 段一	段二 段三 段四 段五 段六 段七 段八 段九 段十 段十一 段十二 段十三 段十四 段十五 段十六 段十七 段十八 段十九 段二十 段二十一 段二十二 段二十三 段二十四 段二十五 段二十六 段二十七 段二十八 段二十九 段三十 段三十一 段三十二 段三十三 段三十四 段三十五 段三十六 段三十七 段三十八 段三十九 段四十 段四十一 段四十二 段四十三 段四十四 段四十五 段四十六 段四十七 段四十八 段四十九 段五十 段五十一 段五十二 段五十三 段五十四 段五十五 段五十六 段五十七 段五十八 段五十九 段六十 段六十一 段六十二 段六十三 段六十四 段六十五 段六十六 段六十七 段六十八 段六十九 段七十 段七十一 段七十二 段七十三 段七十四 段七十五 段七十六 段七十七 段七十八 段七十九 段八十 段八十一 段八十二 段八十三 段八十四 段八十五 段八十六 段八十七 段八十八 段八十九 段九十 段九十一 段九十二 段九十三 段九十四 段九十五 段九十六 段九十七 段九十八 段九十九 段一百	初段四 段五 段六 段一	段二 段三 段四 段五 段六 段七 段八 段九 段十 段十一 段十二 段十三 段十四 段十五 段十六 段十七 段十八 段十九 段二十 段二十一 段二十二 段二十三 段二十四 段二十五 段二十六 段二十七 段二十八 段二十九 段三十 段三十一 段三十二 段三十三 段三十四 段三十五 段三十六 段三十七 段三十八 段三十九 段四十 段四十一 段四十二 段四十三 段四十四 段四十五 段四十六 段四十七 段四十八 段四十九 段五十 段五十一 段五十二 段五十三 段五十四 段五十五 段五十六 段五十七 段五十八 段五十九 段六十 段六十一 段六十二 段六十三 段六十四 段六十五 段六十六 段六十七 段六十八 段六十九 段七十 段七十一 段七十二 段七十三 段七十四 段七十五 段七十六 段七十七 段七十八 段七十九 段八十 段八十一 段八十二 段八十三 段八十四 段八十五 段八十六 段八十七 段八十八 段八十九 段九十 段九十一 段九十二 段九十三 段九十四 段九十五 段九十六 段九十七 段九十八 段九十九 段一百	

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。



美那・湊・みなみ野・峰・宮川・宮地・雅・御代田・名東・八潮・倭・有家・有家虹・有穂・優生・石文・横浜第一・好野・李光・龍文・綾華・凜心・りんりん・麗墨・和

Table with multiple rows and columns containing names, grades, and symbols. The table is organized into sections, likely representing different groups or events. Each cell contains a name, a grade (e.g., 初段, 二段), and various symbols (circles, triangles, stars) indicating status or achievements.





# 第33回 成田山全国競書大会

— 開催のお知らせ —

主催：成田山全国競書大会実行委員会  
後援：中国大使館／読売新聞社

全国の少年少女を対象に、第三十三回成田山全国競書大会は明春成田山で開催、特別賞受賞者が中国へ派遣されます。どうぞ奮ってご応募下さい。

▼出品受付—平成二十九年一月二十五日(水)～三十一日(火)  
各地区提出先へ送ってください。

▽対 象—小学生(幼児は小一に含む)／中学生／高校生  
▽作品種類—記載は標準寸法です。

小・中学生の部 半紙 33.3×24.3 cm 美濃判は不可  
条幅 68.0×17.4 cm 小画箋半切四分の一  
半紙 33.3×24.3 cm 美濃判は不可  
高校生部 条幅 135.0×34.5 cm 半切(大)

▽課題 自由 但し小学生は六字以内、中・高生は字数も自由。

▼十一月下旬、応募要項で詳細を発表、従来の出品者にはお送りします。

## ▼書象会関係委員

実行委員……田中 節山  
関東地区実行委員……市澤 静山  
東京地区審査委員……内藤 望山  
事務局委員……杉山 暁雲

## ▼お問合せ・お申込は…

〒八〇〇〇一 武蔵野市吉祥寺北町四一三一六  
書象会成田山全国競書大会係  
TEL・FAX 0422-1531-9743

## 書象会便り

### ◆改組 新 第三回日展

〈入選〉 芦川臨泉 ○池上湖心 大澤梢光  
小川仙草 ○小瀨石峯 小山春聲  
洪江皎雲 杉山暁雲 竹内青紗  
竹内墨洋 竹内藍山 露崎玄峯  
寺尾碩雲 ○中川汀松 ○橋本桂雪  
畑中高山 藤澤珠玉 柳澤玄嶽  
山口啓山 (○印は新入選)  
田中節山 内藤望山

### ◆第79回謹慎書道会展審査役職決まる

書象会関係は以下の通り  
〈審査顧問〉 田中節山  
〈審査副主任・審査進行〉 市澤静山  
〈特別賞選考委員〉 市澤静山 田中節山  
内藤望山

### 〈当番審査員〉

萩田光山 露崎玄峯  
虎井暁鐘 畑中高山  
樋口玄山 山口啓山

### 〈書展予告〉

☆第9回葛飾現代書展  
会期 十一月十九日(土)～十一月二十五日(金)  
会場 かつしかシンフォニーヒルズ(本館二階)  
出品者 小川仙草 露崎玄峯(本会関係)

☆第9回櫻の森書道展  
会期 平成二十九年一月七日(土)～一月九日(月)祝  
会場 塩尻市 市民交流センター(えんぱーく) 三階  
主宰 樋口玄山先生

### 〈書展報告〉

☆第66回福井書法展  
会期 九月二十二日(木)祝～二十五日(日)  
会場 福井県立美術館  
特別部門 特別賞 齊藤祥仙 出品 長谷川清風  
一科 特選 中本裕子

☆舞鶴市文化協会主催文化祭  
会期 九月三十日(金)～十月二日(日)  
会場 舞鶴市総合会館  
出品者 一照会より十四名(本会関係)

☆第12回瑞祥書展  
会期 十月十二日(水)～十六日(日)  
会場 名古屋博物館  
主宰 日比野汀華先生

☆第38回小平市民文化祭  
会期 十月二十日(水)～二十三日(日)  
会場 ルネこだいら  
出品者 藤岡月華他十三名(本会関係)

☆第56回高山市国府書道会書展  
会期 十月二十二日(土)～二十三日(日)  
会場 国府交流センター(JR国府駅前)  
会長 片町光仙

☆第49回一照会書道展  
会期 十月二十八日(金)～十月三十日(日)  
会場 舞鶴市西駅交流センター  
出品者 二十六名

## 書象会総会・新年会のお知らせ

左記の通り開催いたします。  
多数ご参加下さいますよう御案内申し上げます。  
日時 平成29年1月22日(日) 正午～14時30分  
会場 京王プラザホテル5階  
「コンコードボールルーム」  
会費 一万五〇〇〇円

※尚、新年会に先だち11時より47階「あけぼの」にて授号式が行われます。

氏名	発行人 (有) 書象
	代表 上 條 節 夫
	〒東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三一六
	郵便番号180-0001 電話〇四三(二五三)九七四三
	振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一
	振替名義 (有) 書象
	印刷所 株式会社 リンクス